



「家族」

絵・文 稲葉 正(京都北)

2019年のゴールデンウィークに、加藤賀千雄先生ご夫妻と私たち夫婦は南部アフリカの旅に出かけました。このペン画は、アフリカの野生ライオン家族の朝食直後の場面です。母親と子どもたちが木陰で休んでいました。後ろ姿の子ライオンはまだインパラの足をかじっています。母親はじっとこちらを見つめています。もう1頭の子ライオン

は、他の方向に気になるものがあったようです。場所はボツワナのチョベ国立公園です。ここは東京都の5倍の広さがあり、私たちはその中でリバーフロントと呼ばれるところへ行きました。ジンバブエ、ザンビア、ナミビアとの国境近くのこの地域ではチョベ川のクルーズとサファリカーに乗ってサファリを楽しむことができました。

残暑お見舞い申し上げます

2021年 夏 京都府保険医協会 役員・事務局一同



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員
は会費に含まれる

発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師
上ル七観音町637
インターワンプレイス烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 花山 弘



特集「あだちメシ」
会員投稿

(1) 4面
(2) 2面

ご用命はアミスまで

- ◆医師賠償責任保険
 - ◆休業補償制度
(所得補償、傷害疾病保険)
 - ◆針刺し事故等
補償プラン
 - ◆自動車保険・火災保険
- ☎075-212-0303

私の趣味 日本百名城60番目の訪問

丸岡城と日本一短い手紙



尾崎 望
(右京)

と。昨年は、たしか「笑顔」がテーマだったように記憶しているが、私の子どもたちや孫たちも応募した。結果は残念ながら惨敗に終わったが、一時の興奮を味わうことができた。

昨年9月、妻と二人で福井県の丸岡城を訪れた。私たちにとって60番目の日本百名城である。この城は姫路城や大阪城のような堂々とした威容こそ感じられないが、こじんまりして質素な作りがよい。つい最近まで、現存する日本最古の天守閣とみなされていただけあって、灰色の石瓦は素朴で美しく、長年の風雪に耐えてきた重みすら感じられる。私にとってお城めぐりが面白いのは、城のあるそれぞれの地の風土と文化に触れられることが大きい。丸岡城には徳川家康の家臣、本多作左衛門重次が陣中から妻に宛てて送ったあの有名な手紙「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥せ」(写真)の石碑がある。ここに言う「お仙」とは後の丸岡城主・本多成重(初代丸岡藩主(幼名・仙千代))のことである。この石碑が縁で、日本一短い手紙文の一筆啓上賞が始まり、毎年テーマが決められ全国から日本一短い手紙(40字以内)が多数寄せられる。今年で29回目を数えるこのこ



本多作左衛門重次の有名な手紙の石碑

こうしてアフターケアをもって、私の丸岡城体験は終了した。コロナ禍で最近はお城めぐりから遠ざかっている。世間が落ち着いたら、次は宇和島か大洲城あたりを狙っている。

まで文学であり政治の道具にすべきではない、ということかと私には思われる。

もう一つ、私にとって丸岡で印象深いことに、中野重治の生家が城近くであり、中野はこの城を見て育ったらしい。中野は転向したプロレタリア作家と評価されており、その点でこれまでいささかの関心を持っていたが、その作品を読んだことはなかった。これをきっかけに中野の評論集や中野について書かれた伝記に目を通してみた。詩、小説、評論と実に多作である。戦前は日本プロレタリア作家同盟の幹部をつとめ、その作風はリアリズムにこだわっており、似非リアリズム作家への批判は極めて厳しい。巷間伝えられるように、中野には戦時中に投獄され、いわゆる転向を表明して出獄した経歴がある。が、「転向」ののちも天皇制と戦争に反対する立場で、当時許される範囲内で論陣を張っている。戦後共産党の参議院議員になり文化の分野で活躍し、その後除名された経歴もある。中野の文学観は時代とともに少しずつ変化しているように感じられるが、究極のところ文学はあくまで文学であり政治の道具にすべきではない、ということかと私には思われる。

特集

ランチお取り寄せプロジェクト

「あだちメシ」

職員の福利厚生と地域支援を兼ねて

足立病院 院長
澤田 守男

新型コロナウイルス感染症拡大第1波の真っただ中だった2020年5月に、医療法人財団足立病院（中京東部）では職員の福利厚生と地域の飲食店支援を兼ねて「あだちメシ」プロジェクトを開始。このプロジェクトは、近隣の飲食店や旅館の方たちに協力してもらい、日替わりでお弁当を提供してもらう。職員への福利厚生も兼ねて、配食希望者にはワンコイン500円で販売し、差額は足立病院が負担するというもの。澤田守男院長に、この企画を立ち上げた経緯や思いなどをお聞きした。

——このプロジェクトを開始されたきっかけは。

そもそものきっかけは、「綿善旅館」（中京区）の若女将である小野雅世さんと「なごみ宿都和」（下京区）の女将である太田佳子さんから、新型コロナウイルスの重篤患者を受け入れている大学病院にお弁当を差し入れたいと相談があったことです。私の母校だったことから相談いただいたようで、その件は大学病院につながる事ができました。

第1波の中、病院職員も気分転換に外でランチを、なんてことはもちろんできません。そんな中、旅館からお弁当を仕出ししてもらったことができるのであれば、ぜひ足立病院でもお願いしたいと考えました。パンデミックのような危機の折は、助け合いの精神で乗り切りたい、できることなら地産地消も目指したいという思いもありました。

——職員の皆さんの反響は。

職員にこんなことを始めるよと伝えた時には、また院長が変なことを言い出したという訝しげな目でしたが（笑）、始めてみれば好評で楽しんでもらえた。



日替わりで楽しめた各店からのお弁当。どれも豪華です。

——足立病院は他にもいろいろ企画をされていますが、このコロナ禍で立会い出産を制限せざるを得ません。何とか家族で触れ合う機会を作れないかと、隣接するホテルに協力してもらい、1棟をお借りして、退院後に数日家族で過ごしてもらうホテルステイというサービスを提供していました。食事は、あだちメシで培ったネットワークを活用して、飲食店からケータリングで提供して貰いました。赤ちゃんを囲んで家族一緒に過ごすことが可能で、入院よりは自由度が高いですし、何かあればすぐに看護師等が駆け付けられるという安心感もあります。

20年5月から始まったこのプロジェクトは、第1波が収まった6月末にいったん終了。計34日間のお取り寄せで、多い時は50食も注文することができました。

緊急事態宣言が解除された際には、あのお弁当が美味しかったからと、職員が家族と一緒にそのお店に行つたという話も聞きました。そうした縁が広がっていただければいいなと思います。

——この「あだちメシ」はNHKの番組「サラメシ」でも放送されましたね。

実は私、「サラメシ」のファンなんです（笑）。

働く大人のお昼ごはんをテーマにした番組なので投稿してみました。コロナ禍でNHKスタッフが取材に来るのではなく、機材一式が送られてきて自身で撮影を、ということでしたが、貴重な経験でした。

——足立病院は他にもいろいろ企画をされていますが、このコロナ禍で立会い出産を制限せざるを得ません。何とか家族で触れ合う機会を作れないかと、隣接するホテルに協力してもらい、1棟をお借りして、退院後に数日家族で過ごしてもらうホテルステイというサービスを提供していました。食事は、あだちメシで培ったネットワークを活用して、飲食店からケータリングで提供して貰いました。赤ちゃんを囲んで家族一緒に過ごすことが可能で、入院よりは自由度が高いですし、何かあればすぐに看護師等が駆け付けられるという安心感もあります。

足立病院は、医療に限らず幅広く地域コミュニティのハブになりたいと考えています。そのために何が出来るか、毎日「妄想？」を繰り返していています（笑）。YouTubeチャンネルを立ち上げたり、最近では、地域の方たちや京都市高齢者接種において、コロナワクチンの接種にもできるだけ協力していると考えています。

「できることは何でもやっていこう」。それが自分たちのモチベーションになるし、職員への刺激になると信じて、畑山博理事長にご指導いただきながら、ポストコロナを見据えて前進していきたいと思っています。

私の趣味

いま 現在は じっと我慢の 琉球・江戸巡り

武田 信巳（西京）

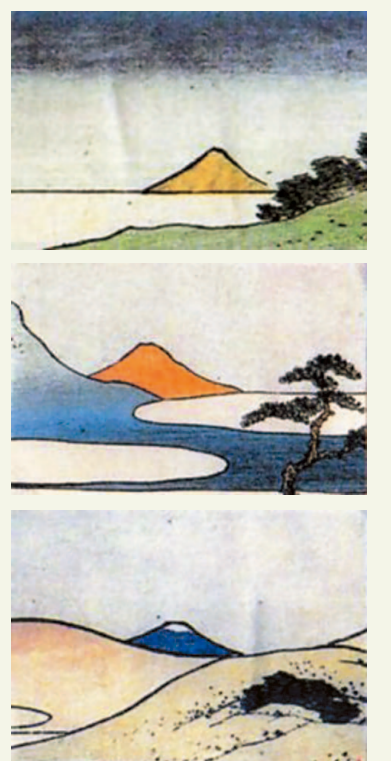


図2 六景(上)、七景(中)、八景(下)

早々とレセプトチェックを終え、この拙文を書き始めた6月1日は沖縄県のCOVID-19新規感染者数がほぼピークに達し、全国ワースト1になった日だった。

小生は昔の琉球とその文化に大いに興味があり、幾

度と渡沖の上、我楽多を蒐集しその素晴らしさを2007年より年2回約15年間、発行継続中の京都桂東洋医学センター誌(現在27号)に取り上げている。例えば新嘉坡で作られたパナリ焼や古窯跡も訪れた喜納・知花を始めとする多種多様な焼物、中国の影響を受けたものの16世紀から琉球王国の貝摺奉行の主導下、夜光貝・金粉・黒漆を用いた螺鈿、沈金・堆錦および日本由来の油彩・密陀絵などの漆芸、さらに今年100歳を迎え芭蕉布の復興に情熱を注がれた尊敬する人間国宝・平良敏子さんの紹介を兼ねた独特の染織など、枚挙にいとまがない。

しかし、この依頼原稿には2013年11月13日上梓した第12号第8章の元市立病院同僚と不定期に開催し

六景には遠く海上に浮かぶ仏の「モン・サン・ミッシェル」のようなそれ、また七景には「凱風快晴」を連想させる均整のとれた赤いもの、究極は八景の南国なのに頂上に雪らしきものを冠した日本人のアイデンティティをくすぐる「心象幻景」



図1 北斎の琉球八景の内 七景 城嶽霊泉



図3 北斎の墓石

困ったときは
まずご連絡を
保険請求など
日常診療をサポート



©もへろん

私の思い出

「わが人生に悔いなし」でいこう

中路 裕 (西京)



ハモニカに恋する二人やカブト虫

夏の海波とたはむる弟と我日傘の祖母がじつと見守る

あきらさん近寄り難し祖父なりきちよっとおいでと幼き僕を

夏休み

祖母に連れられて弟と行った香櫨園での海水浴。ただで良かったが、小学生2人で開けたことも、とスイ夏休みになると、弟と2人を連れて泳いでいる僕たちを見守っているだけだった祖母、のんびりしていた良き時代であった(が、一つ間違えば大変なことになった。拙著『ぼくの既往歴』海水浴のあとにはラムネ(指だけで行かせた両親、日傘をさして泳いでいる僕たちを見守っているだけだった祖母、のんびりしていた良き時代であった(が、一つ間違えば大変なことになった。拙著『ぼくの既往歴』海水浴のあとにはラムネ(指

扇風機

父親が十三市民病院に勤めていた時「マイク飛び歩き」というラジオ番組に出演した。大阪市内のとある養護施設での診察風景が放

蓄音機

送された。ついでに我が家(といっても祖父の家の離れである)にも取材陣がきた。サプライズで父親がプ

母屋に祖父母が住んでいた。応接間にはラッパ状の拡声器がついている蓄音機があった。78回転のSPレコード(standard playing record)だが、何を聞いていたか定かではない。横

チャーズ、ローリングストーンズ、アニマルズ、特にビートルズなどの作品を購入して暇があれば聴いていた。しかしレコードはCD(MD)の出現によって1980年代以降は激減した。最近になって昔のレコードやカセットテープが聴きたくて複合機を買ってしまった。探さなくっちゃ!!

祖父

祖父は1人しか知らない。祖母は3人(曾祖母も)知っている。父方の祖父は、嵐山などで料理旅館(今はない嵐峽館など)を営んでいたのが、朝早く長靴を履いて中央市場へ行っていた姿をよく見ていた。可愛がってもらった記憶はない。正月に

西宮の祖母

可愛がってくれた。僕も慕っていた。元氣だった

以上、昔を思い出す今日この頃である。今年で71回目の夏である。義父・繁喜が好きだった竹内まりやの「人生の扉」ではないが、「この先いつた何度だろう」と思う毎日である。父・博が練習していた裕次郎の「わが人生に悔いなし」(作詞：なかにし礼、作曲：加藤登紀子)といきたいものだ。

地藏川 (通称)

桂の地藏寺の傍を流れている。よく魚取りをした。初めて手つかみで魚を取った時の感激を忘れない。蛭にもかまれた。輪ゴムで縛って血をしぼった(年かきの男の子の知恵)。竹の棒で対岸へ跳んだことも(たまにはまるのだ)。上流が高校2年の時に急死、いろいろな話を聞きたかった、残念!!



「一万三千尺物語」

私の“鉄道G物語” @富山

村上 匡孝 (綴喜)

富山に遠回りして途中下車。名物列車「一万三千尺物語」を楽しんだ思い出話です。



写真1 北陸新幹線かがやき

富山へのGの旅の序章は、「かがやき」のグランクラスに乗ってグルメ旅(写真1)。

1000mの富山湾、その高低差は約4000mという、富山は世界でも大変珍しい独特の地形を持ち合わせています。4000mは13000尺、あいの風とやま鉄道には「一万三千尺物語」という観光グルメ列車が走っています。天然の生簗と呼ばれる富山湾の採れたての魚と、ミネラル豊富な立山の雪解け水



コロナ禍など思いもなかった2年前、東京の学会からの帰りに北陸新幹線



写真2 立山連峰を觀賞



写真3 一万三千尺物語と記念撮影



写真4 観光グルメ列車ならではの贅沢なお弁当



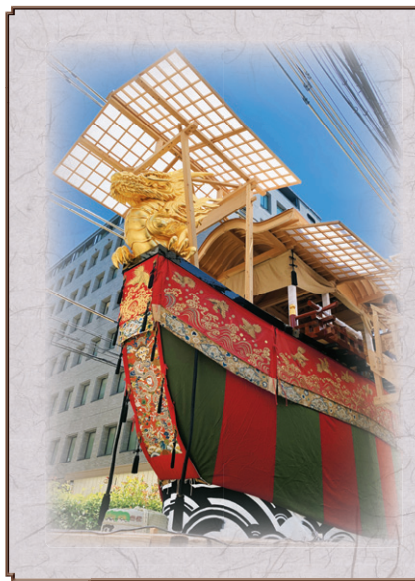
写真5 カウンターには多種のお酒が陳列



記念乗車券

大船鉾の金の竜頭お目見え

大船鉾は1864年の禁門の変で焼失し、14年に復興されました。16年には瀧尾神社が木彫りの竜頭を寄進。白木のままで巡行していたそうです。今年、その竜頭に漆箔が施され、新町通四条下ルにお目見えです。



関西国際空港からKLM
オランダ航空でアムステル
ダム經由スペインバスクの
中心地ビルバオに到着。2
日目グッゲンハイム美術館
と世界最古の運搬橋である
世界遺産ビスカヤ橋で川岸

昨年はコロナで海外に行くことができなかったが、一昨年10月の国境をまたぐスペインバスとフランスバスを訪ねる旅（私の好きな阪神航空フレンドツアー）の思い出を書いてみる。



ペインワインの名産地ハの州都ログローニヨへ。途中キリスト教三大聖地の一つサンティアゴ・デ・コンポステーラに向かう巡礼路沿いの中世の町サント・ドミンゴ・デ・ラ・カルサダを散策。ワイナリーでリオハ赤ワインを賞味。4日目はヘミングウェイゆかりの有名な牛追い祭りパンプローナ。途

のナバーラ風マス料理とリ
ング酒「シードル」。昼食
後世界一的美食の町として
名高いサンセバスチャン
に。王室の夏の別荘地であ
り、海岸では海水浴を楽し
む風景も。サンセバスチャ
ンといえばバルだが、旧市
街を中心にずらりとお店が
立ち並ぶ。カウンターに
ぎっしりとタパスやピン
チョスが並び、白ワイン
チャコリとともに言葉は通
じずとも指さすだけでOK。
K。ミシユランの一つ星か



サンセバスチャンのバルが集まる通り

向かい、昼も夜もボルドーワインを賞味。ボルドーはワインの産地として有名なので農村をイメージしていたが、世界遺産に登録されている市街地は都会である。

8日目、9日目は帰国への途。バスクは、母国語の他に独自の言語・文化を持つ民族で、町の中の道路標識も両方の言語で書かれており、現在のバスクは観光に注力することで大きく発展し、バスク人としての自覚と自信を取り戻している。

疫病退散を願って

疫病退散と言えば京都では八坂神社が有名ですが、今回は上賀茂神社をご紹介します。上賀茂神社の正式名称は、賀茂別雷神社。自然神の賀茂別雷大神がご祭神で、雷の御神威により、厄を祓いあらゆる災難を除く厄除・明神・落雷除・電気産業の守護神として広く信仰されています。

ちなみに、賀茂別雷大神から見
て母親の玉依比売命と、祖父の
賀茂建角身命がご祭神の下鴨神社
(賀茂御祖神社)も、人々の暮らし
を守る神様です。



たてずな
上賀茂神社の立砂

もりずな
盛砂とも云い、ご祭神が最初に
降臨こうやまされた神山に因んだもの。
神様が降りられる憑代である。

私の旅行記

スペイン・フランス 2つのバスク
美食と小さな村をめぐる旅

増田 道彦
(宇治久世)



中2本の巡礼路が合流するプエンテ・ラ・レイナ散策。5日目は

このレストラン
どの店も満員
人であふれか
国境を越えてフ
「フランスの美しい村」に登
録されているアイノアを散
策後、一つ星レストランで
昼食。午後は港町サンジャ
ン・ド・リュズ観光をし、

ス有数の海辺の高級リゾートビアリッツへ。海岸は海水浴でにぎわっており、夕食は一つ星レストランで創作料理を楽しむ。7日目は

たてずな
の立砂
祭神が最初に
因んだもの。
代である。



栗原 眞純 (伏見)

私のすすめるBOOK



『家族の歌
河野裕子の死を見つめた344日』
河野裕子・永田和宏・その家族 著
2011年2月13日
産経新聞出版 発行
1,320円（税込）

会話にも似ているなあと思いつつ、人間必ず死ぬと判つていても、その日はまだ来ないと思ひ込んでゐる者と、病状から残りわずかと実感した者との間には、心理的な壁が生じ、その間でどう看取りどう

だから嘘の方を聴きたかつたのよ。君はまだ大丈夫、死
ない！これ以上悪くなら
ない！手術も抗がん剤も苦
い追加処置は必要ない
と。主治医じゃなく夫なの
から。私(妻)が再発したら

が」と夫に口述筆記された。本書は、それまでの比較的ゆとりある時間を以て、死への看取りと鎮魂への交流とを實現して記載された貴重な成功譚の1冊とも言える。ご購読をお勧めする。

本書は、歌人故河野裕子の乳がん再発後他界まで、まだ来ぬ死を見つめながら344日間の生き様を家族と共に取り組んだ思い出の書で、河野永田一家の歌人5人の歌63首と、お互いを思いやった63編の随想に加え、故人の未発表エッセイには実母を含め一家外の歌も何首が含まれている。ところで、京都協会では、14年7月27日(日)の総会後

に、世界的な細胞生物学者で、高名な歌人の永田和宏氏を招き、講演「言葉の力」を聴講した。内容は、妻は河野裕子で与謝野晶子以来の秀麗・傑出した歌人で、岡本かの子逝去から30年にして「たとへば君 ガサツと落ち葉すくふやうに私をさらつて行つてはくれぬか」との力強い歌も聴いた、と紹介された。そして、それはまた、たくましく

ただ、講演者からは、妻は数年前乳がんが再発して逝去し、その際その病態について、いろいろな調べ、正しく理解し心を砕いて伝えたりもしたが、「嘘を言っている、何か隠している」と辛そうに受け答えして取り合ってくれず、それが心残りでした、とのこ

の者はすでにあの世に旅立
か消滅している（本紙30
4号掲載）。もはや共感の
葉かけもできず、例えばF
フェリーニ監督作品、映
「道」のザンパノとジェル
ミーナとの関係のようにな
っていいようか（本紙30
2号掲載）。

一緒に聴講した小児科医
妻は、ちよつと意見を異に
た。本人はまだ死にたくない

あつたのであるが。

歌はあまり解らない。しかし、むしろ、笑う、食う、歩くなどして生き、腹式呼吸やら、例えばまた「古くなり切れて久しき電球の下通るたび念力ためす」と自然体での歌の方が好きではある（大森静佳『この世の息 歌人・河野裕子論』185頁）。

歌人最期の歌は「手をのべてあなたとあなたに触れたとき

宇田 憲司（宇治久世）

来るべき日の消滅にめげず
今日も一日元気で活動しよう

鎮魂がなされるかが課題と
る。前者の者が自分も後者
なつたと分かつた時、初め
後者の者の苦しみ悲しみが
く心から分かるようになる

あなた(筆者)も医者ぶって学者ぶってまた統計の話でもするのよね? との批判であった。尤も、本人には、「夫といえども他人にこの痛みがわからない言えない」との苦悶は
